ふみびと

第３８２号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

流れる季節に足をとめて

今だけの風景

ついこの間までは暖かい日中の気温の中でウトウトしていたものですが、そんな過ごしやすい時期も堪能するほどの間もなく過ぎ去ってしまいました。陽の当たる部屋の中は暖かいからと、ついうっかり薄着で外に出てしまうと、思いのほか冷たい風に踵（きびす）を返すことに。

毎日の暑さに心身ともに参って、早く夏が終わらないかなと思っていた頃からまだたったの3ヶ月ほどですが、暑い方がマシだったなと思うほど体の芯に突き刺さるような寒さの足音が少しずつ強くなってきています。

暑さも苦手だけど寒さはもっと苦手。一年のほとんどを自然との戦いに明け暮れる私ですが、それでも実は一番好きな季節は冬。

自分が生まれたのが冬だからか、寒いのが苦手な割に冬になるとなぜか気持ちは高ぶってきます。

澄んだ空気に広がる白い吐息。霜が降りて朝日に輝く草木。他の季節には感じられない布団の温もり。

寒いのは辛いことだけど、どれも寒くなくては味わえない冬の「風物詩」と言えるもの。それは思いつくだけでも意外とたくさんあるものです。

清少納言の『枕草子』にも雪や霜だけでなく、火鉢を持って廊下を渡り歩く様でさえ、季節感があると書かれています。

これから寒さがより一層厳しくなって辛い日が増えてくることでしょう。そんな時は一枚多く上着を羽織って敢えてちょっと外出してみるのもいいかもしれません。

震えるような寒さだから見られる。そんな今だけの風景を探しに。

うしろ姿

カレンダーの残りが、あと一枚か二枚になったことに気づく。毎日見ていたはずなのに、その数字が急に背中を見せているように感じられて、少し胸がざわついた。何ができたのだろう、何ができなかったのだろう。はっきり答えが出なくても、そんなふうに問いかけたくなる時期だ。一年はいつも、正面からやってきて、やがて背を向けて去っていく。その背中を見送るように、今はゆっくりと立ち止まってみる。せわしない日々の合間に、ほんのひとときこの一年を振り返る。今年のはじまりに書いた小さなメモや、撮ためた写真をそっと見返す。そこにあった思いや風景が、今の自分につながっていることに気づく。

完璧じゃなくてもいい。予定通りでなくてもいい。ただ、歩いてきた道に目を向けることで、これから向かう季節にも、少しだけ新しい勇気を出せる気がした。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局宛の返信用封筒に同封下さい。今までにない交流の始まりです。

次回発送日

次回発送日は12月8日22日の予定です。送りたいお手紙がある場合はそれぞれ5日、19日までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。これは発送に間に合わせる一つの目安ですので、ご自身のペースを大切にしてください。

感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて下さい。方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報を伏せた上でご紹介させて頂きます。